

季刊  
4月・5月・6月



# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 124

福島県立博物館



春の企画展  
寄贈記念

## 自然をうつす

漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性

平成29年4月29日(土・祝)～6月4日(日)

平成29年度春の企画展

寄贈記念

# 自然をうつす

漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性



会 期：平成29年4月29日(土・祝)～6月4日(日)

\*月曜日休館、5月1日は開館

会 場：福島県立博物館企画展示室

観覧時間：9時30分～17時

\*入館は16時30分まで

観覧料：一般・大学生500円(20名以上の団体400円)

小中高校生無料

福島県文化功労賞受賞者で会津を代表する漆芸家・関谷浩二。

福島県川俣町出身で、会津若松市の時絵師・関谷彦蔵に学び、その没後は、日本を代表する漆芸家・六角大塚、田口善国に技術を磨きます。技だけではなく精神性まで教えられたという優れた師たちとの出会いの中で身についた精緻な技も、技だけでは成り立ちません。

関谷浩二は、日々、自然に向き合い、その姿の写生を重ねました。対象の質感、気配までうつし取ろうとするかのように丹念に行われた写生が、秀逸な技と融合した時、漆の新たな表現を生み出しました。それらは、関谷浩二の漆表現への挑戦の軌跡でもあります。

本展は、近年、ご本人よりご寄贈いただいた漆作品約40点の当館での初公開と代表作の展示により、関谷浩二の漆表現の探求の旅をたどるものでもありません。

会津伝統の漆の技、日本を代表する技術、それらを基盤とした漆表現の数々。会津が生んだ珠玉の作品たちを、ぜひご覧ください。

## 【関谷浩二】

大正15年(1926) 福島県川俣町に生まれる

昭和21年(1946) 会津若松の時絵師・関谷彦蔵に漆の手ほどきを受ける

昭和42年(1967) 漆芸家・六角大塚に師事

昭和48年(1973) 六角大塚の没後、漆芸家・田口善国に師事

平成7年(1995) 会津若松市文化芸術功労賞受賞

平成17年(2005) 福島県文化功労賞受賞

平成20年(2008) 創作活動休止

1.「穂波時絵盤」 2.「ごぜんたちばな割貝時絵飾箱」 3.「桐の実時絵飾箱」 4.「湿原時絵飾箱」(個人蔵) 5.「時絵盤 芽生え」 6.「木蓮時絵飾箱」(個人蔵) 7.「時絵平棗 宇宙の神秘」(個人蔵) 8.「乾漆波文時絵飾壺」 9.「乾漆朱金喰籠」 10.「時絵棗 みのり」(個人蔵)

※全て関谷浩二作。個人蔵以外は、関谷浩二氏寄贈 福島県立博物館蔵



9



7



4



10



8



5



### 【漆の器でどうぞ】

けんぱくティールームで、会津の漆の作り手たちの器でデザートをお楽しみいただけます。展示とあわせて漆の手触りをご堪能ください。



6

## アーティストトーク「漆との出会い、自然との出会い」

講師：関谷浩二（漆芸家）

日時：4月29日（土・祝） 13時30分～14時30分

会場：企画展示室

申込不要（一般・大学生は要企画展チケット）

聞き手：小林めぐみ（当館学芸員）

## ワークショップ「自然を描く・漆で描く」

自然のありようを観察し、丹念なスケッチを日々描き、その中から漆芸の図案を生みだしていった関谷浩二の作品制作の視点を体験するために、自然を描き、漆で描くワークショップを開催します。I部写生編の講師は会津若松市出身のアーティスト古川弓子。福島県立博物館周辺などの散策でみつけたそれぞれの「自然」を描いてみます。描いた自然を漆で表現するII部蒔絵編の講師は、会津若松で学んだ蒔絵師の八木由紀子。描いた図案を塗りの小箱に蒔絵してみます。I部だけ、II部だけでもご参加できますが、I部とII部両方ご参加がおすすめです。

\*開催1カ月前から応募を受け付けます。

お電話が福島県立博物館受付カウンターでお申し込みください。

### I部 写生編 全2回

講師：古川弓子（アーティスト）

日時：①5月6日（土）13時30分～16時30分、

②5月7日（日）9時30分～12時30分

会場：実習室・博物館周辺

定員：15名（要申込・先着順）

参加費：無料

\*両日でもいずれか一日のみの参加でも可能です。

### II部 蒔絵編 全3回

講師：八木由紀子（蒔絵師）

日時：①5月14日（日）、②5月21日（日）、③5月28日（日）

3日間とも13時30分～16時

会場：実習室

定員：15名（要申込・先着順）

参加費：1,000円

\*3回ともご参加いただける方に限ります。

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは平成24年からスタートしました。アーティストと県内外の諸施設・団体が協働することで福島県の文化的体力をつけることを目的にしています。リサーチ、ツアーなどを通して福島の記憶・教訓・現在を共有・発信してきました。

その過程で生まれた作品が蓄積し、また、震災・原発事故の記憶の風化が進む現状を受けて、平成27年度から成果展「アートで伝える考える 福島の今、未来」を静岡市・浜松市・京都市・足利市・長岡市・新発田市・松本市・津奈木町(熊

本県)の県外各地で開催してきました。

各会場でのアンケートには、福島県の復興、現状を知ることができたという声、また、復興への激励をちょうだいしました。福島からの積極的な発信、それを文化芸術のスタイルで行うこととの大切さを実感しています。

本特集展は初の県内での成果展です。南相馬市、飯館村でフロッタージュ(擦り出し) 作品を



安田佐知種「みち《未知の道》」

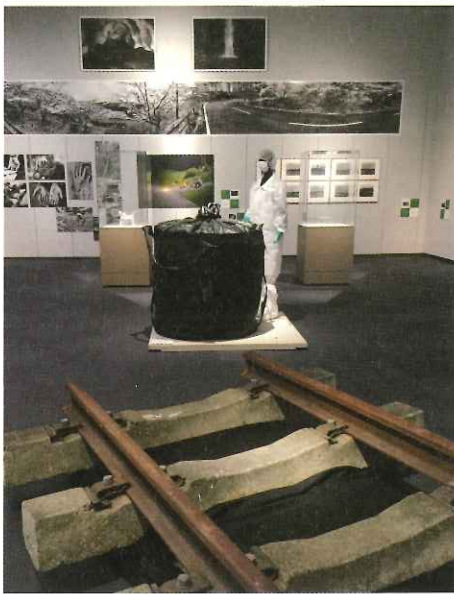
## 平成28年度 冬の特集展

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展

# アートで伝える考える 福島の今、未来展

at Fukushima Museum

会期：平成29年2月4日(土)～4月11日(火)



展示風景

制作してきた岡部昌生さんの作品には、すでに失われた津波の記憶や今も続く原発事故の影が記録されています。また写真家のみなさんの活動も際立ちます。作品には、決して失ってはいけない福島の自然と歴史、原発事故がもたらした課題が正面から捉えられています。相馬野馬追、双葉ダルマの再生に目を向けたプロジェクトには各地で立ち上がった福島の人々の志が込められています。震災遺産資料と合わせての展示も初の試みです。震災の記憶を刻むモノたちとアートの語る声に耳を傾けてください。



土田ヒロミ「願う者は叶えられるか」他



岡部昌生「伐り倒された綿津見神社の大杉」

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、平成29年2月11日(土・祝)〜4月11日(火)を会期に、本特集展を開催しました。

プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すパシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から行ってきました。

本県における「震災」には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などのさまざまな局面がありました。そして、広域に分布する仮設住宅

3. 11の地震と大津波は浜通りの各地域に甚大な被害をもたらしました。それまで何ら

気にも留めず「日常」の中にあつた商店街の街灯や橋の欄干やポストや車のドアや線路などが一瞬に変わり果てた姿となり、自然災害の威力を伝え、命の尊さを考えさせる「資料」となりました。



久之浜商店街の街灯と豊間中学校の資料

## 平成28年度 冬の特集展

# 「震災遺産展」6本の年輪

会期：平成29年2月11日(土・祝)〜4月11日(火)

団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が、震災から6年を迎えた今も生み出され続けています。これもまた「震災遺産」なのです。この展示は、プロジェクトで収集した資料や写真を紹介しながら、震災の多様性を考え、震災後のふくしまを振り返り、未来を見つめる機会を提供しようというものです。

あの日・あの時から

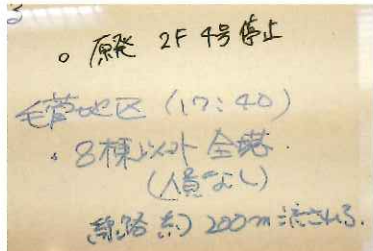


展示会場入口と被災した老人介護施設の壁紙

### 断絶する「日常」

津波で被災した多くの方々は避難所に避難しました。しかし、その後起こった原発事故によって、膨大な数にのぼる県民が、高線量地帯から避難することを余儀なくされました。1日だけの避難所や災害対策本部が取り残されました。6年の時を経てあの日そのまま残されているのです。

富岡町の災害対策本部に残されたホワイトボード



富岡町災害対策本部のホワイトボード

には刻一刻入る町内の被害状況が書き残されています。中には「原発2F 4号停止」の文字もありました。

### 思いがけない「未来」

県民には予想だにしない未来が待っていました。さまざまな「避難」生活です。旧相馬女子高避難所で4月に設けられた小学校の特設学級で模造紙に書かれた「みんなの夢」には「はやくお家に帰りたい」など、とても切実な子供達の夢が残されています。

東京電力女子サッカー部マリエにも思いがけない未来が待ち受けていました。震災直後から活動を自粛、9月には東京電力が実業団から撤退を表明し、事実上廃部となりました。

### 飯館村綿津見神社の樹

齡150年以上の大杉。境内の線量を低くするために伐らざるを得ませんでした。原発事故さえなければ、あれから6本の年輪を重ねているはずでした。しかしその年を数えることなく命を終えてしまいました。

### あの日、あの時から6年の月日を数えました。

この春、飯館村や富岡町の一部避難区域が解除されました。「復興」は徐々に進みつつあるようですが、福島県民の心の再生・復興はまだ遠いと言わざるをえません。心の復興を目指して、福島県立博物館ではこのような「震災遺産展」を毎年開催して行こうと思います。



東京電力女子サッカー一部マリエの資料

## 温度と湿度から展示品に生じる危険性を予測する

保存科学担当学芸員 杉崎佐保恵

福島県立博物館では、展示品を適正な空気環境で展示するために、判断材料となる指標を計測して改善に役立てています。代表的な指標は、温度と湿度、真菌（カビ）、室内汚染物質（アンモニア、酢酸、ホルムアルデヒド）、微粒子（ダスト）などです。今回は、最も基本となる温度と湿度についてご紹介いたします。

### 温度と湿度の適正值

福島県立博物館の場合、温度 $20 \pm 2$ 度（℃）、相対湿度 $60 \pm 5$ パーセント（%）を展示室の適正值としています。「±（プラスマイナス）」は変化の範囲を意味します。つまり、温度の標準値を $20 \text{℃}$ とし、 $18 \text{℃}$ から $22 \text{℃}$ の範囲内に変化を抑えま



写真1 自記式記録計（計測値を自ら記録する器械、記録紙上段は温度、下段は湿度）



写真2 空調を介して展示室に適正な空気が送り込まれる（手前の矢印は吹き出し口、奥は吸い込み口）

す。同様に、湿度の標準値を60%とし、55%から65%の範囲内に変化を抑えるという意味になります。

展示室や展示ケースの中（写真1）を計測して、計測結果から展示品に生じる危険性を予測します。展示品の材質によってベストの条件は異なりますが、例えば、「紙」の場合、湿気が多いと折り曲げに対して弱くなり、乾燥すると柔軟性が失われてしまいます。

### なぜ温度と湿度が基本となるのか

展示室において展示品が損傷する要因をいくつかご紹介いたします。

カビは微生物の一種で、温度 $25 \text{℃}$ 、湿度60%を超えるると発生の危険性が高まります。湿気が多いほどカビの生育スピードが増します。65%では3年程度かかりますが、結露や水濡れがあるとわずか2日程度で生育します。カビは生育するために、展示品自体や表面の埃などを栄養源にし、展示品を脆くします。加えて、カビが生育する過程で、色素を作り出して展示品を汚損し、酸を作り出して展示品にさらに損傷を与えます。

昆虫は、一般的に温度 $20 \text{℃}$ を超えると活動が活発になりますので、年間をとおして危険性があります。昆虫によって性質は様々ですが、例えば、チャタテムシは湿気を好みます。全長2mm程度の小さくて色の薄い昆虫で、古文書を開いたときに見つかることが多いものです。カビを食べることもあるので、この虫を大量に見つけたときはカビの発生にも注意します。

湿気が多すぎると、空気中の室内汚染物質が湿

気とともに展示品の表面にしみ込み、アンモニアによって銅製品が錆びる（緑青をふく）。酢酸によって貝標本の表面に白い斑点ができる（白華現象）。ホルムアルデヒドによって日本画の彩色が剥落するなどの危険性が高まります。

反対に乾燥しすぎると、木材が収縮し反ってしまいます。あまりにも乾燥すると、木製の桶のタガが外れてしまうことがあります。

塗装された木材の場合、湿度の急激な変化によって木材の寸法が数%変化すると、塗料に損傷が生じるとされています。

このように、温度と湿度は展示品に生じる被害を予測する最も基本的な値となります。

損傷の例をいくつかご紹介しました。いずれも不可逆、つまりいったん損傷してしまうと温度と湿度を適正にしても元に戻せないのです。

### 空気環境を適正に保つ方法

空調設備（空調機）を用いて温度と湿度を適正に保ち、展示室に送り込んでいます（写真2）。福島県立博物館では一年をとおして、空調機を運転しています。空調機には、空気中の塵や埃（塵埃）を除去するためのエアフィルターも設備しています。屋外から、エントランス、展示室の順に入館者が入館して展示をご覧になりますので、展示室は屋外と繋がっている空間になります。開館前に毎朝、展示室の清掃を行っております。エアフィルターによって屋外から入り込む塵埃を除去してしまいます。

このように、空気環境を適正に保ち、展示品に生じる損傷を最小限に抑えています。

企画展

一般・大学生500円、高校生以下無料  
企画展示室

自然をうつす

漆芸家 関谷浩一が挑んだ漆表現の可能性  
4月29日(土・祝)～6月4日(日)

アーティストトーク

(申込不要、要企画展料金、企画展示室)

「漆との出会い、自然との出会い」

4月29日(土・祝) 13時30分～14時30分  
講師 漆芸家 関谷浩一氏  
聞き手 学芸員 小林めぐみ

ワークショップ

「自然を描く・漆で描く」

I部 写生編(全2回)  
①5月6日(土) 13時30分～16時30分  
②5月7日(日) 9時30分～12時30分  
講師 アーティスト 古川弓子氏  
(要申込、定員15名※先着順、無料、実習室)

II部 時絵編(全3回)

①5月14日(日) ②21日(日) ③28日(日)  
各13時30分～16時  
講師 時絵師 八木由紀子氏  
(要申込、定員15名※先着順、1000円、実習室)

※II部は全3回通してのご参加をお願いします。

テーマ展

部門展示室  
常設展料金

ふるさとの考古資料6

【飯館村】遺跡探訪

～5月14日(日)

心の四季 美術工芸に見る春・夏・秋・冬

4月22日(土)～6月4日(日)

託されたおもい 奇贈・奇託の名品たち

6月10日(土)～7月17日(月・祝)

ポイント展

総合・部門展示室  
常設展料金

端午の節供と五月飾り

4月21日(金)～6月21日(水)

収蔵史料にみる戦国の群雄

4月15日(土)～7月16日(日)

いろんなダルマ集まれ!

6月23日(金)～8月30日(水)

移動展

いわき市奪りしの伝承郷  
TEL0246-29-2230

東北の仕事着コレクション

6月3日(土)～7月2日(日)

講座・実演

★は要申込

【館長講座】(申込不要、無料、講堂)

「北のはやり歌①②③」  
①4月20日(木) ②5月18日(木)  
③6月15日(木)  
各13時30分～14時30分  
講師 館長 赤坂憲雄

【考古学講座】(申込不要)

「ハニワ大王の講談スパー古事記①②③」  
①4月16日(日) ②5月21日(日)  
③6月18日(日)  
各11時～11時30分、13時30分～14時  
講師 学芸員 荒木隆(無料、体験学習室)

【パワーアップサロン】考古学①②③

①4月22日(土) ②5月27日(土)  
③6月24日(土)  
各14時～15時30分  
講師 学芸員 荒木隆  
(要飲食料金、レストラン)

【保存科学講座】(要申込、定員15名、無料、視聴覚室)

★「犯人はおまえだ!」  
原因を見極めて博物館資料の寿命を延ばす!  
4月22日(土) 13時30分～15時  
講師 学芸員 杉崎佐保恵

【民俗学講座】(申込不要、無料、講堂)

「おもしろ民俗学ゼミナール①」  
5月27日(土) 13時30分～14時30分  
講師 学芸員 内山大介

★【歴史講座】(要申込、定員35名、無料、実習室)

★「はじめてさんの古文書講座①」  
6月17日(土) 13時30分～15時  
講師 学芸員 阿部綾子

【実技講座】

(要申込、定員10名、1000円、体験学習室)

★「須賀川の絵のぼり・小旗をつくらう」  
5月5日(金・祝) 13時30分～15時  
講師 伝統技術保持者 大野青峯氏・大野久子氏

【実演】(申込不要、無料、体験学習室)

「博物館でも読み聞かせ①②③」  
①4月8日(土) ②5月13日(土)  
③6月10日(土)  
各11時～11時30分、14時～14時30分  
講師 会津管内読み聞かせボランティアグループ

【大堀相馬焼の絵付け】

6月18日(日) 13時30分～15時  
講師 いかりや商店白河工房 山田慎一氏

【ギャラリートーク】

(申込不要、無料、エントランスホール)  
「ハニワ大王のさわってギャラリー①②③」  
①4月2日(日) ②5月7日(日)  
③6月4日(日)

各11時～11時30分、13時30分～14時  
講師 学芸員 荒木隆

ミュージアムイベント

申込不要

「民謡 会津磐梯山と玄如節」

(無料、エントランスホール)  
6月24日(土) 13時30分～15時  
出演 玄如節顕彰会

友の会イベント

申込不要

「coderanni リンサート」(無料、講堂)

4月1日(土) 13時30分～15時  
出演 会津室内楽団アンサンブル  
「Coderanni」

\*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。  
\*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

4月～5月の休館日

4月3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)  
5月8日(月)・15日(月)・22日(月)・29日(月)  
6月5日(月)・12日(月)・19日(月)・20日(火)・26日(月)

※5月1日(月)は開館  
※5月5日(金)・6日(土)は常設展無料

【お問い合わせ先】福島県立博物館  
〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
Tel 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986  
HP <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>  
Mail [general-museum@fcs.ed.jp](mailto:general-museum@fcs.ed.jp)  
「メールレスが愛わりました」

